



果樹特報

No.8

平成 30 年 7 月 6 日
J A 中野市営農センター
J A 中野市りんご・もも部会

6/29 に関東甲信地方で観測史上最速で梅雨明け（昨年比-7）となりました。梅雨期間は非常に少雨で、6 月末から猛暑日が続いたため、ハダニ類が増加中です。加えて集中豪雨等で炭そ病の果実感染も心配されます。害虫被害が目立つ場合は、今回の定期散布を前倒し等の対策を講じてください。また、徒長枝等の夏季管理を適宜実施し『薬液が通りやすい環境』を整えてください。

りんご

7 月中旬の薬剤散布（前回より 15 日後）

◆ 散布日：7 月 日

◆ 散布量： リットル

◆ 散布時期：7 月 15～20 日

◆ 散布薬剤：水	1 0 0 リットル		
展着剤	1 0 ml	* 注意事項①参照	
ダニコングフロアブル	5 0 ml	（前日、1 回）	* 注意事項③参照
劇剤 オリオン水和剤	1 0 0 g	（前日、2 回）	* 注意事項④参照
オキシラン水和剤	2 0 0 g	（14 日前、4 回）	
スイカル	1 0 0 g		

◆ 散布量：10a 当り 600 リットル

◆ 対象病虫害：輪紋病、炭そ病、褐斑病、斑点落葉病

ハダニ類、シンクイムシ類、ハマキムシ類、カイガラムシ類

◆ 注意事項 * 必ずお読みください。

- ① 通常展着剤（ハイテンパワー等）に代えて、機能性展着剤のササラの 2000 倍（100 リットルに 50ml）を使用すると薬液が葉裏（毛じ間）によく広がり、散布後の乾きも早くなる効果がある。（殺ダニ剤との相乗効果期待できる）
- ② ハダニ類対策：梅雨明けが早まった場合や発生が目立つ場合（葉裏が赤色に見える等肉眼で判断できる場合）は、上記の日程より前倒しで実施する。
- ③ ダニコングフロアブルに代えて、スターマイトフロアブル 2,000 倍（前日、1 回）でもよい。
- ④ オリオン水和剤は劇物登録薬剤です。購入の際は印鑑を持参してください。
- ⑤ シンクイムシ類対策：被害果は必ず採取して水没処理する。（二次被害の発生防止）
- ⑥ 枝らん病・褐斑病対策：トップジン M 水和剤 1,000 倍（前日、6 回）を加用する。
- ⑦ 園全体に薬液が到達するように散布量は多めに設定する。特に園が込み合っている場合は、外周等に死角がないように手散布等で補助する。

◆ 次回散布予定：8/1～5

次回（8 月上旬）は、盛夏期の薬剤散布です。引き続き、散布間隔 15 日を維持してください。

◆ 次頁もお読みください。（梅雨明け～盛夏期の殺ダニ剤のローテーション記載）

➡ りんご殺ダニ剤の選択について

薬剤名	倍率	使用基準	使用回数	IRACコード	種類に対する効果		ステージに対する効果		
					リンゴハダニ	ナミハダニ	卵	幼若虫	成虫
オマイト水和剤	750	3 日前	1 回	12	○	○	○	○	○
コロマイト乳剤	1000	前日	1 回	6	○	○	○	○	○
ダニゲッターフロアブル	2000	前日	1 回	23	○	○	○	○	△
スターマイトフロアブル	2000	前日	1 回	25A	○	○	○	○	○
ダニサラバフロアブル	1000	前日	2 回	25A	○	○	○	○	○
ダニコングフロアブル	2000	前日	1 回	25B	○	○	○	○	○

① 梅雨明け～盛夏期の殺ダニ剤ローテーション【基本体系】について

- ➡ 7 月中旬（7/15～20 頃）（若齢幼虫等に中期的効果あり・残効 14 日程度）
 - ➡ 8 月上旬（8/1～5 頃）：（速効的・成虫に効果あり・残効短い）
 - ➡ 8 月中旬（8/15～20 頃）：（成虫に効果あり・残効短い）
- ② ハダニ類の発生が目立つ場合は、8 月上旬散布予定のコロマイト乳剤を前倒して散布する。
- ③ ダニコング・スターマイト・ダニサラバは同一薬剤系統（IRAC25）である。抵抗性回避のため、いずれかを年 1 回のみ使用とする。
- ④ ダニコングフロアブルは成虫に対してやや遅効的效果を示す。散布 7 日後以降に効果が発現する。
- ⑤ オマイト水和剤は、ナシ類の登録がないので飛散しないように注意する。
- ⑥ バイスロイド EW、イカズチ WDG 等の合成ピレスロイド剤は、殺ダニ登録はあるが効果はほとんどないので、盛夏期のシンクイムシ類対策として使用する。ただし、抵抗性が出現しやすいため、合成ピレスロイド剤は年 2 回の使用とする。